

# 第1次 嘉麻市デジタル推進計画

## 評価方法について

令和8年5月27日（水）

# 前回（第20回）会議及び事前アンケートの意見

主な意見等	事務局見解
3年間の総合的な評価で良いと思う。最終的にどこまで出来たかが問題なのではないか。	—
3年間の総括評価と3カ年平均のどちらかを選ぶことになるのか？	数値目標の記載されたアクションシートについては、客観的に達成率が図れるが、数値目標がない場合には、総括評価と3カ年平均のどちらかを選ぶこととなる。
平均にすると年度ごとの頑張りが見えにくい。年度ごとの進捗率を示しておいた方が分かり易いのではないか。	—
年度タスクは当初設定され、計画変更を行っているわけではない。3カ年の評価としては、総括評価の方がふさわしいと思われる。	—
総括評価の書き方が課題となる。数値目標があるプランについても、達成度に対する理由が分かる様に示してほしい。	最終評価の下資料になるように、ヒアリングシートを作成する。
令和8年度評価は、令和8年度の評価なのか？、3カ年の最終評価なのか？	3カ年を通した最終評価である。
最終評価にあたっては、結果をを評価するだけでなく、どのような指標を用いるか。どのようなデータを収集、分析をしたらいいのか検討した方が良いと思う。	—
単年度の評価は大切と思いが、前年度の取り組み実績の上に積み重なるものと思うので、最終年度の結果＝第1次デジタル推進計画の実績と捉え、3カ年の進捗平均は不要と思う。	—

# 第1次デジタル推進計画の最終的な進捗管理の表記事例

※目標値が数値ではなく、文章表現による場合

## 13 本庁と支所のオンライン化拡充

概要

目指すこと	本庁舎と支所のオンライン化をさらに拡充し、必要な手続きや問い合わせができる環境を整えます。
やること	本庁と支所の間でテレビ通話や書類の共有等ができる仕組みづくりを検討します。
目標(値)	本庁と支所等をつなぐシステムの検討
担い手	デジタル戦略課・市民サービス課・その他関係課

目標

目標(値)が「システムの検討」であり、達成率を計り難い

年度ごとのタスク進捗率を参考に算定

3カ年の平均進捗率 56.5%  
or  
総括評価 70%

R6平均 42.5%  
R7平均 50.0%  
R8平均 70.0%

担当課	令和6年度 計画	令和6年度 実施
デジタル戦略課	ネットワークの拡充	50%
デジタル戦略課	事例等の調査・研究	50%
デジタル戦略課	仕組みづくり、実施、評価	50%
嘉穂・碓井・山田市民サービス課	本庁と支所等をつなぐシステムの調査・研究	20%

担当課	令和7年度 計画	令和7年度 実施
デジタル戦略課	ネットワークの拡充	50%
デジタル戦略課	事例等の調査・研究	50%
デジタル戦略課	仕組みづくり、実施、評価	50%
嘉穂・碓井・山田市民サービス課	本庁と支所等をつなぐシステムの調査・研究	50%

担当課	令和8年度 計画	令和8年度 想定
デジタル戦略課	ネットワークの拡充	70%
デジタル戦略課	事例等の調査・研究	70%
デジタル戦略課	仕組みづくり、実施、評価	70%
嘉穂・碓井・山田市民サービス課	本庁と支所等をつなぐシステムの調査・研究	70%

70%?

令和6年度～8年度までの取り組み「総括評価」	70%
総括評価の理由	令和6年度～7年度中は調査・研究が進まなかったが、令和8年度においてタブレットによる実証実験を行い、オンライン化の仕組みの評価が出来たため。

# 第1次デジタル推進計画の評価方法について、フローチャート

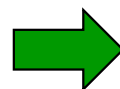
評価を行うために参考にする進捗率

- ・目標（値）に対する進捗率
- ・各年度タスクの3カ年平均進捗率
- ・総括評価による進捗率

※目標値が数値で示され、客観的に進捗率を計れる場合

## 2 マイナンバーカードの普及促進

概要	目標（値）
目指すこと	多くの市民がマイナンバーカードを所有する状況を目指します。
やること	窓口でのマイナンバーカード申請に加えて、職員がさまざまな場所への出張申請支援を行います。
目標（値）	令和8年度までにマイナンバーカード交付率80%
担い手	市民課

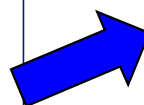


- ・目標（値）に対する進捗率により、達成率を判断する

※目標値が数値ではなく、文章表現による場合

## 13 本庁と支所のオンライン化拡充

概要	目標
目指すこと	本庁舎と支所のオンライン化をさらに拡充し、必要な手続きや問い合わせができる環境を整えます。
やること	本庁と支所の間でテレビ電話や書類の共有等ができる仕組みづくりを検討します。
目標（値）	本庁と支所等をつなぐシステムの検討
担い手	デジタル戦略課・市民サービス課・その他関係課



- ・各年度タスクの3カ年平均進捗率

（メリット）  
各年度タスクに対する進捗率の3カ年平均をとるため客観的な評価が可能

（デメリット）  
令和8年度に大きく取り組みが進んだ場合でも3カ年平均によれば、低い進捗率となってしまう可能性がある



- ・総括評価による進捗率

（メリット）  
目標（値）と各年度タスクとの相違がある場合でも、総括評価により適正な進捗率に近づけることができる

（デメリット）  
各年度タスクに対する進捗状況が評価に反映されない部分が生じる

# 第1次デジタル推進計画の進捗管理

## 【目標（値）に対する達成率の表記方法】

- ▶最終的な目標（値）に対する達成率については、目標（値）を明らかに達成しているものに疑義は生じないが、達成していないものについて、達成度を数値で表すには、その根拠を明確にすることには困難な状況がある。よって、最終的な達成率については、下表のとおり表記することとする。

表記	達成率
達成	100%以上
ほぼ達成	90%以上～100%未満
概ね達成	80%以上～90%未満
やや未達	60%以上～80%未満
課題あり	60%未満

# 令和8年度 進捗管理ヒアリングシート様式（案）

第1次 デジタル推進計画の総括評価		※令和6年度から令和8年度までの取組を総括して記入ください。	
		達成度	目標（値）
令和6年度から令和8年度までの取組みの「総括評価」		80%～89%	デジタルに関するイベント等（イベント、出前講座等）の開催
		概ね達成	
※年度計画の進捗率や3カ年の平均進捗率ではなく、目標値に対する最終的な達成度として記入してください。			
総括評価の理由		※総括評価の達成度を選択した理由について、詳しく記入ください。	
第1次デジタル推進計画の目標（値）に対する成果	3年間の取組によりデジタル化が進んだ点や、デジタル化が進んだことにより市民生活や業務にプラスになっていることについて記載		
取り組んだこと（R6～R8）	3年間に取り組んだ内容について詳しく記載		
見えてきた課題	取組を進める中で見えてきた、課題やその原因。		
デジタル化による今後への可能性	更にデジタル化を進めることによる、市民サービスや業務改善の可能性。		

達成度は10%刻みで選択  
 目標（値）に対する3年間の最終的な達成度を選択  
 ・数値で結果が計れるものは、数値による達成度を基本  
 ・数値で計れないものは、成果などから達成度算出

・上記達成度を説明する内容を記載  
 ・目標（値）に達する達成度や、目標値に設定されていない項目など、結果としてデジタル化が進んだ項目について記載  
 ・達成度を数値で表せない場合は、できるようになった項目などについて記載

・実際にデジタル化を進めようとした際に課題となった項目について記載  
 ・課題が解決できていない原因について記載  
 ・実際に取り組んだ内容の改善点について記載

・当該アクションシートにおいて、更なるデジタル化がもたらす効果（市民サービスの向上・業務改善など）について、具体提に記載



# 第1次デジタル推進計画の最終進捗率・達成率まとめ方（案）

▶各アクションプラン毎に、最終達成率、取り組んだ内容（タスク）、取組実施の成果、今後の課題について記載し、第1次デジタル推進計画の報告書として取りまとめる。

## 6 インターネット利用機会の向上

概要

目指すこと	市民の方が探している情報を迅速に見つけられるように改善することで、市民の利便性を向上させます。
やること	嘉麻市公式ホームページやSNS等の運用方法を見直し、市民に必要な情報をわかりやすく発信できる環境整備を行い、迅速かつ確実な情報発信を行います。
目標(値)	公式ホームページアクセス数 30%向上
担い手	人事秘書課・デジタル戦略課

(取組状況の写真など)

目標達成率	概ね達成	
成果	公式ホームページ アクセス数25%	
やったこと	取り組んだこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNS配信方法の整理、見直し</li> <li>・ ホームページの構成の見直し</li> </ul> ホームページの構成見直しにより、市が発信する情報が分かり易くなり、検索も容易になった結果として、ホームページへのアクセス数が向上した。
	課題	見やすいホームページ構成について、検討していくとともに、媒体単体ではなく、他の情報発信ツール（SNS）との連携を深めることでもっと大きな成果があげられたのではないかと思います。